

NPO実践論としての21世紀社会デザインと コミュニティ・デザイン —まちづくりとソーシャル・キャピタル—

立教大学大学院
21世紀社会デザイン研究科
教授 中村陽一

いま見え始めていること

- 阪神・淡路大震災後10年余りのなかで
- 「都市計画」から「まちづくり」へ、そしてコミュニティ・デザインへ
ただし、調整の要が生じている
- 参加(参画)・協働のまちづくりを基盤としつつも次のステージ＝市民知によるコミュニティ・デザインをめざして
一方法の変化
- 新しい担い手の登場－NPO／NGO、市民活動、そして当事者
- 社会的企業、コミュニティ・ビジネスを活用したコミュニティ形成と多
元的・重層的な協同性－社会的排除との対峙
- 参加と協働のまちづくり→ソーシャル・キャピタルが生きるコミュニ
ティ・デザインとコミュニティ・デザイナー

コミュニティ・オブ・プラクティスとコミュニティ・デザイナー

- コミュニティ・オブ・プラクティス(実践コミュニティ)
- なぜ「コミュニティデザイナー」?
 - キーパーソンではあるがカリスマではない(「人」とは切り離せないが属人化を超える)
 - 活動を推進・促進しつつ、ゆるやかさを保ち続ける(組織化・制度化のなかで、しかしそれを超える)
- コミュニティデザイナーの役割
 - 場を活性化させ、「楽しい」ベクトル(図2参照)へと向かわせる職能、機能(とそれを支える「力」の束)
 - ソーシャル・キャピタルを「むすぶ」「つなぐ」ー「市場」への対抗力

これから考えていきたいこと

- 社会運動としてのNPO／NGO
- 新しい公共と市民参加
- 官から公(public)へ—民学産官協働のガバナンス
- <事業性のなかの運動性> (事業の羅針盤)と
<運動性のなかの事業性> (運動のエンジン)